

- 1 日時：平成27年12月21日（月）午後2時30分から午後4時30分まで
- 2 場所：豊能町立光風台小学校 会議室
- 3 次第
 - 1) 教育環境部会の報告
 - 2) 今後のスケジュール
 - 3) 西地区の学校グループ、東地区の学校グループに分かれて交流
 - 4) 再配置への課題の交流
- 4 出席者：委員14名、教育長、事務局5名

議事

1) あいさつ（教育長）

平成22年に、今後学校をどうするかを諮問会議に諮り、クラス替えができる学校にするのがよいのではないかとのお答申をいただいた。平成25年に小中一貫教育のカリキュラム等の検討が行われ、小中一貫教育が重要との提言を踏まえ、平成26年度に教育委員会会議で協議し、保幼小中一貫教育を進めていくという観点から、連携性を高めていく、子どもの数の減少を踏まえて学校を再配置することも検討する、小中間には適度の段差も必要ということなども含めて小中併設型で、学校のリニューアル等も含めて平成30年代の初頭には実現させることが望ましいと話をしてきた。

シームレスな教育とは、ほぼ保幼小中一貫教育と同義である。その内容の1つ目は、教育内容をつながりよく、特に5歳から1年生、小学校5・6年生から中学1年生、カリキュラム内容面におけるシームレス。2つ目は指導方法のシームレス。3つ目は故郷を理解し、故郷を慈しむ教育。4つ目は東西交流や同学校種の交流。5つ目は学習指導要領改訂に伴う外国語活動をどうするかである。こういったことがカリキュラムを今後考えていく上での課題ではないかと考える。

もし学校を再配置し、併設型の小・中学校を置くとした場合に、地域等の特色や通学を考えて、東と西と両方に中学校区をきちんと置くということも考えている。そういうことから東西交流が重要視される。深い理解と専門性を活かした議論をお願いしたい。

2) 西地区の学校グループ、東地区の学校グループに分かれて検討

3) 意見交換

（東地区の学校グループより） ※教育環境部会での意見をまとめた資料をもとに意見交換

- ・「推進することでメリットがあると考えられること」の項目について
 - ④について、中学校を統合すると教員の数が10ぐら減る。東・西の2中学校区必要ではないか。
- ・「推進することでデメリットが生じると考えられること」の項目について
 - ①・②について、教師一人当たりの児童生徒数の問題である。
 - ③について、学校間の交流を推進することで、小規模校のデメリットはある程度は解消できるが、十分ではない。
 - ④について、人間関係が固定化される中で、クラス替えが出来る方が望ましい。
 - ⑤について、中・中統合されると地域とのつながりが失われる。
 - ⑥・⑦について、バス通学はよくない。東西バスなど公共交通機関があるならまだよいが。

⑨について、小中一貫教育をすれば、中学校がよくなる。4・3・2制を入れると10歳の壁の解消にはなるが、小学校6年間で仕上げてきたものが4年間で仕上げなければならなくなる。

⑩について、東能勢中校長の資料より、段階的な合体をしていくことも考えられる。

(西地区の学校グループより)

小中一貫教育によって、何がよくなるのかについて話をした。小学校、中学校の段差がなくなるのはよいが、段差を経験することも大切である。小中一貫教育によって、各教科においてどの段階で何をすればよいのかが具体的に見えやすくなる。ただ学習指導要領が小学校と中学校で違うため、カリキュラムについては6・3制で考えるべきではないか。なぜするのかということを考えて進めていくことが大切である。なぜ6・3制なのか全て知った上で進めていくことが必要。中学校の先生が小学校に行って授業をする、小学校の先生が中学校に行って授業をする、そういった中で情報交換しながら道を探してことが大事という意見が出た。

(委員)

東地区について、現状、今ある課題が何なのか、その課題を解決すればどういふ未来が開けるのか話し合っていくことが大事である。

(会長)

教科指導の連携が大事。小中連携のメリットは生活指導の部分がメインになりがちであるが、教科指導と両輪で考えていく。教科指導の連携に関しては、今すぐにでも始めなければならないこと。4・3・2制、6・3制区切りも含めて、どんなメリットがあるのか、どういふ考え方で教育を行わなければならないか、しっかりとみんなで学んでいく。

(委員)

こうして集まっているのであれば、最低2年ぐらいである程度方向、結論を出さないと意味がない。何のために、どんな課題を解消するために小中一貫教育をするのか話を進める。統合する・しないが先にたってしまうと、一貫教育の意味が薄れてしまう。

(会長)

教科指導を保・幼から中までつなげることも考えなければならなし、生活指導で子どもたちの「生きる力」をどのように育てていくかということも考えなくてはならない。来年度は、評価や生徒指導など分科会をもって、先生方で研究していただいて、担う人たちを育てていくということが必要かと思われる。2回のカリキュラム部会の後、保護者に説明していただくことになるので、配置の問題、クラブ活動の問題、東西交流の話、カリキュラム、指導方法についてまとめられればと思う。

4) 今後のスケジュール

○第2回カリキュラム部会・・・1月18日(月)各課題についての意見交流、具体的な検討、全体会3月4日報告の準備

○第4回教育環境部会・・・・・・2月1日(月)予定

○第3回カリキュラム部会・・・2月22日(月)まとめの作成、課題解決に向けての取り組み、答申に向けて